

平成 29 年度 九州大学 2 次試験後期日程 (数学問題)150 分  
理学部 (数学科) 3 月 12 日 数学 I・II・III・A・B

- 1 座標空間における  $xy$  平面上に, 原点  $O$  を一つの頂点とし,  $AB$  を斜辺とする直角三角形  $OAB$  がある. また  $xy$  平面上にない点  $C$  をとり,  $C$  から  $xy$  平面におろした垂線と  $xy$  平面の交点を  $H$  とする.  $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ ,  $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ ,  $\overrightarrow{OC} = \vec{c}$  とおき, 以下の問いに答えよ.
- (1)  $\overrightarrow{OH}$  を  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$  を用いて表せ.
  - (2) 点  $G$  を  $\triangle OAB$  の重心とし, 点  $H$  は  $O$  と  $G$  を通る直線上にあるとする.  $H$  が  $O$  と異なるとき, 2 つの角  $\alpha = \angle AOC$  と  $\beta = \angle BOC$  に対して,  $\frac{\cos \alpha}{\cos \beta}$  を  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  を用いて表せ.
- 2 複素数  $\alpha$  を  $\alpha = \cos \frac{2\pi}{7} + i \sin \frac{2\pi}{7}$  とおく. ただし,  $i$  は虚数単位を表す. 以下の問いに答えよ.
- (1)  $\alpha^6 + \alpha^5 + \alpha^4 + \alpha^3 + \alpha^2 + \alpha$  の値を求めよ.
  - (2)  $t = \alpha + \bar{\alpha}$  とおくとき,  $t^3 + t^2 - 2t$  の値を求めよ. ただし,  $\bar{\alpha}$  は  $\alpha$  と共役な複素数を表す.
  - (3)  $\frac{3}{5} < \cos \frac{2\pi}{7} < \frac{7}{10}$  を示せ.
- 3 放物線  $C: y = -x^2 - 1$  上の異なる 2 点  $P_1(x_1, y_1)$ ,  $P_2(x_2, y_2)$  に対して,  $P_1$  と  $P_2$  を通る直線と  $x$  軸との交点の座標を  $(a, 0)$  とする. ただし,  $x_1 + x_2$  は 0 でないとする. また,  $0 < t < \pi$  を満たす  $t$  に対して  $f(t) = \frac{\cos t}{\sin t}$  とするとき, 以下の問いに答えよ.
- (1)  $a$  を  $x_1, x_2$  を用いて表せ.
  - (2)  $(f(t), f'(t))$  は  $C$  上の点であることを示せ.
  - (3)  $0 < t_1 < \frac{\pi}{2}$ ,  $0 < t_2 < \frac{\pi}{2}$  を満たす異なる  $t_1$  と  $t_2$  に対して,  $C$  上の 2 点  $P_1(f(t_1), f'(t_1))$ ,  $P_2(f(t_2), f'(t_2))$  で定まる  $a$  は  $f(t_1 + t_2)$  に等しいことを示せ.
  - (4)  $C$  上の 2 点  $P_1(\sqrt{3}, -4)$ ,  $P_2(f(t), f'(t))$  で定まる  $a$  が 1 に等しいとき,  $t$  の値を求めよ. ただし,  $0 < t < \frac{\pi}{2}$  とする.

4 数直線上の点  $P$  を次の規則で移動させる．さいころを投げて，1 または 2 が出れば  $+1$  だけ移動させ，3 または 4 が出れば  $-1$  だけ移動させ，5 または 6 が出れば移動させない．はじめに  $P$  は原点にあるとし，さいころを  $n$  回投げた後の  $P$  の座標を  $X_n$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) とする．以下の問いに答えよ．

- (1) さいころを 3 回投げて  $X_3 = 0$  となる確率を求めよ．
- (2) 自然数  $n \geq 3$  に対し， $X_n = n - 2$  となる確率を  $n$  を用いて表せ．
- (3) さいころを 6 回投げて  $X_6 = 0$  となったとき，この 6 回のさいころ投げのうち，1 または 2 の目が出た回数が合わせて  $k$  回であった確率を  $Q(k)$  ( $k = 0, 1, \dots, 6$ ) とおく． $Q(k)$  が最大となる  $k$  を求めよ．

## 解答例

- 1 (1)  $xy$  平面上のベクトル  $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  は垂直であるから，直交する単位ベクトルを

$$\vec{e}_1 = \frac{\vec{a}}{|\vec{a}|}, \quad \vec{e}_2 = \frac{\vec{b}}{|\vec{b}|}$$

とし， $\vec{e}_1$  と  $\vec{e}_2$  に垂直な単位ベクトルを  $\vec{e}_3$  とする．

このとき， $\vec{c}$  は， $\vec{e}_1, \vec{e}_2, \vec{e}_3$  を用いて

$$\vec{c} = (\vec{c} \cdot \vec{e}_1) \vec{e}_1 + (\vec{c} \cdot \vec{e}_2) \vec{e}_2 + (\vec{c} \cdot \vec{e}_3) \vec{e}_3$$

点 H は  $xy$  平面上の点であるから

$$\overrightarrow{OH} = (\vec{c} \cdot \vec{e}_1) \vec{e}_1 + (\vec{c} \cdot \vec{e}_2) \vec{e}_2 = \frac{\vec{c} \cdot \vec{a}}{|\vec{a}|^2} \vec{a} + \frac{\vec{c} \cdot \vec{b}}{|\vec{b}|^2} \vec{b}$$

- (2) G は  $\triangle OAB$  の重心であるから  $\overrightarrow{OG} = \frac{1}{3}(\vec{a} + \vec{b})$

$\vec{a}$  と  $\vec{b}$  は 1 次独立であり，点 H は O と異なる直線 OG 上の点であるから，上式および (1) の結果より

$$\frac{\vec{c} \cdot \vec{a}}{|\vec{a}|^2} = \frac{\vec{c} \cdot \vec{b}}{|\vec{b}|^2}$$

これに  $\vec{c} \cdot \vec{a} = |\vec{c}| |\vec{a}| \cos \alpha$ ， $\vec{c} \cdot \vec{b} = |\vec{c}| |\vec{b}| \cos \beta$  を代入すると

$$\frac{|\vec{c}| |\vec{a}| \cos \alpha}{|\vec{a}|^2} = \frac{|\vec{c}| |\vec{b}| \cos \beta}{|\vec{b}|^2} \quad \text{ゆえに} \quad \frac{\cos \alpha}{\cos \beta} = \frac{|\vec{a}|}{|\vec{b}|}$$

$$\boxed{2} \quad (1) \quad \alpha = \cos \frac{2\pi}{7} + i \sin \frac{2\pi}{7} \text{ より } \alpha^7 = \cos 2\pi + i \sin 2\pi = 1$$

$$\alpha^7 - 1 = 0 \text{ より } (\alpha - 1)(\alpha^6 + \alpha^5 + \alpha^4 + \alpha^3 + \alpha^2 + \alpha + 1) = 0$$

$$\alpha \neq 1 \text{ であるから } \alpha^6 + \alpha^5 + \alpha^4 + \alpha^3 + \alpha^2 + \alpha + 1 = 0$$

$$\text{よって } \alpha^6 + \alpha^5 + \alpha^4 + \alpha^3 + \alpha^2 + \alpha = -1$$

$$(2) \quad \alpha^6 \alpha = \alpha^5 \alpha^2 = \alpha^4 \alpha^3 = 1 \text{ より}$$

$$\alpha^6 = \bar{\alpha}, \quad \alpha^5 = \overline{\alpha^2} = \bar{\alpha}^2, \quad \alpha^4 = \overline{\alpha^3} = \bar{\alpha}^3$$

これらを (1) の結果に代入して整理すると

$$\alpha^3 + \bar{\alpha}^3 + \alpha^2 + \bar{\alpha}^2 + \alpha + \bar{\alpha} + 1 = 0 \quad \cdots \textcircled{1}$$

$\alpha + \bar{\alpha} = t$  であるから

$$\alpha^2 + \bar{\alpha}^2 = (\alpha + \bar{\alpha})^2 - 2 = t^2 - 2,$$

$$\alpha^3 + \bar{\alpha}^3 = (\alpha + \bar{\alpha})^3 - 3(\alpha + \bar{\alpha}) = t^3 - 3t$$

これらを ① に代入すると

$$(t^3 - 3t) + (t^2 - 2) + t + 1 = 0 \quad \text{よって } t^3 + t^2 - 2t = 1$$

$$(3) \quad t = \alpha + \bar{\alpha} = 2 \cos \frac{2\pi}{7} > 0$$

$$f(t) = t^3 + t^2 - 2t - 1 \text{ とおくと, } f'(t) = 3t^2 + 2t - 2$$

$$f'(t) = 0 \text{ とすると } t = \frac{-1 \pm \sqrt{7}}{3}$$

$t > 0$  における増減表は

$t$	(0)	...	$\frac{-1+\sqrt{7}}{3}$	...
$f'(t)$		-	0	+
$f(t)$	(-1)	$\searrow$	極小	$\nearrow$

(1) の結果から,  $t$  は  $f(t) = 0$  ( $t > 0$ ) の解である.

$$\frac{-1 + \sqrt{7}}{3} < \frac{6}{5}, \quad f\left(\frac{6}{5}\right) = -\frac{29}{125} < 0, \quad f\left(\frac{7}{5}\right) = \frac{113}{125} > 0$$

$$\text{以上の結果から } \frac{6}{5} < 2 \cos \frac{2\pi}{7} < \frac{7}{5} \quad \text{よって } \frac{3}{5} < \cos \frac{2\pi}{7} < \frac{7}{10}$$

- 3 (1)  $C: y = -x^2 - 1$  上の異なる 2 点  $P_1(x_1, -x_1^2 - 1)$ ,  $P_2(x_2, -x_2^2 - 1)$  を通る直線の方程式は

$$\begin{aligned} y - (-x_1^2 - 1) &= \frac{-x_2^2 - 1 - (-x_1^2 - 1)}{x_2 - x_1}(x - x_1) \\ y &= -(x_1 + x_2)(x - x_1) - x_1^2 - 1 \\ y &= -(x_1 + x_2)x + x_1x_2 - 1 \end{aligned}$$

この直線と  $x$  軸との交点の  $x$  座標  $a$  は,  $x_1 + x_2 \neq 0$  に注意して

$$0 = -(x_1 + x_2)a + x_1x_2 - 1 \quad \text{よって} \quad a = \frac{x_1x_2 - 1}{x_1 + x_2}$$

(2)  $f(t) = \frac{\cos t}{\sin t}$  を微分すると  $f'(t) = -\frac{1}{\sin^2 t}$

したがって  $f'(t) = -\frac{\cos^2 t}{\sin^2 t} - 1 = -\{f(t)\}^2 - 1$

よって,  $(f(t), f'(t))$  は  $C$  上の点である.

- (3) (1) の結果に  $x_1 = f(t_1)$ ,  $x_2 = f(t_2)$  を代入すると

$$\begin{aligned} a &= \frac{f(t_1)f(t_2) - 1}{f(t_1) + f(t_2)} = \frac{\frac{\cos t_1}{\sin t_1} \cdot \frac{\cos t_2}{\sin t_2} - 1}{\frac{\cos t_1}{\sin t_1} + \frac{\cos t_2}{\sin t_2}} = \frac{\cos t_1 \cos t_2 - \sin t_1 \sin t_2}{\sin t_1 \cos t_2 + \cos t_1 \sin t_2} \\ &= \frac{\cos(t_1 + t_2)}{\sin(t_1 + t_2)} = f(t_1 + t_2) \end{aligned}$$

- (4)  $P_1$  の  $x$  座標について,  $f(\alpha) = \sqrt{3}$  ( $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$ ) とおくと

$$\frac{\cos \alpha}{\sin \alpha} = \sqrt{3} \quad \text{ゆえに} \quad \tan \alpha = \frac{1}{\sqrt{3}} \quad \text{すなわち} \quad \alpha = \frac{\pi}{6}$$

- (3) の結果に  $a = 1$ ,  $t_1 = \frac{\pi}{6}$ ,  $t_2 = t$  を代入すると

$$1 = \frac{\cos\left(\frac{\pi}{6} + t\right)}{\sin\left(\frac{\pi}{6} + t\right)} \quad \text{ゆえに} \quad \tan\left(\frac{\pi}{6} + t\right) = 1$$

$0 < t < \frac{\pi}{2}$  より,  $\frac{\pi}{6} < \frac{\pi}{6} + t < \frac{2}{3}\pi$  であるから

$$\frac{\pi}{6} + t = \frac{\pi}{4} \quad \text{ゆえに} \quad t = \frac{\pi}{12}$$

- 4 (1)  $X_3 = 0$  となるのは、移動が  $+1, -1, 0$  となる回数が、それぞれ

$$(1, 1, 1) \text{ または } (0, 0, 3)$$

のときであるから、求める確率は

$$(3! + 1) \left(\frac{1}{3}\right)^3 = \frac{7}{27}$$

- (2) 自然数  $n \geq 3$  に対し、 $X_n = n - 2$  となるのは、移動が  $+1, -1, 0$  となる回数が、それぞれ

$$(n - 1, 1, 0) \text{ または } (n - 2, 0, 2)$$

のときであるから、求める確率は

$$({}_n C_1 + {}_n C_2) \left(\frac{1}{3}\right)^n = \frac{n(n+1)}{2 \cdot 3^n}$$

- (3) (i)  $k = 0$  のとき、移動が  $+1, -1, 0$  となる回数は、それぞれ  $(0, 0, 6)$  であるから、その確率は

$$Q(0) = \left(\frac{1}{3}\right)^6 = \frac{1}{3^6}$$

- (ii)  $k = 1$  のとき、移動が  $+1, -1, 0$  となる回数は、それぞれ  $(1, 1, 4)$  であるから、その確率は

$$Q(1) = \frac{6!}{1!1!4!} \left(\frac{1}{3}\right)^6 = \frac{30}{3^6}$$

- (iii)  $k = 2$  のとき、移動が  $+1, -1, 0$  となる回数は、それぞれ  $(2, 2, 2)$  であるから、その確率は

$$Q(2) = \frac{6!}{2!2!2!} \left(\frac{1}{3}\right)^6 = \frac{90}{3^6}$$

- (iv)  $k = 3$  のとき、移動が  $+1, -1, 0$  となる回数は、それぞれ  $(3, 3, 0)$  であるから、その確率は

$$Q(3) = \frac{6!}{3!3!} \left(\frac{1}{3}\right)^6 = \frac{20}{3^6}$$

- (v)  $4 \leq k \leq 6$  のとき  $Q(k) = 0$

- (i) ~ (iv) より、求める最大の  $k$  は  $k = 2$